

恩 師 訪 問

石 山 ミ ッ 子 先 生

母校で勤務された方の近況をお伝えする「恩師訪問」。第十四回目は今回は理科実習助手として授業を陰から支えてこられた石山ミツ子先生。四月十日(土)、同僚だった、広報委員高島清子(昭三十三卒)がお話を伺った。

秋高に勤務された頃のことをお聞きしたいのですが

勤務したのは一九八二年(昭五十七)四月から一九九三年(平五)三月までの十一年間でした。

ちょうど校舎改築の計画が進められていた頃でした。ただ、理科棟は前年(昭五十六)九月に新しい建物が完成して引越したばかりでした。前任の方はさぞかし難儀されたことでしょう。お陰で実験室はきちんと整備されていて、明るく見晴らしも良かったです。

まもなく、校舎改築が始まり、小体育館の上が職員室で、仮校舎で文化祭をした記憶が残っています。また仮校舎の教室はベニヤ板で仕切られていたので隣の教室の音が筒抜けでした。

当時の理科の状況をお聞かせください。

とにかく実験が多い学校で、授業で説明してわからないこ

とは実験すればすぐわかるという信念の先生方でしたので実験、実験の連続でした。一日三〜四時間は普通で多い時は六時間全部実験という日もありました。しかも実験室が一つだったので、十分の休み時間に前の片づけをして次の実験の準備をするということ

とにかく実験多かった



もしばしばでした。また科目も随分多かったですね。二年の理科三学期に課題研究があり、生徒は機械を使って実験に取り組みましたので、普段授業で使わない大きな機械の準備をしました。先生たちも担当教師だけでなく、全員で指導に当たり、その研

究の結果を小冊子にまとめて発表会をしました。

校務分掌ではどんなことを

図書部や研修部などですが、面白かったのは校史資料部でした。最後の三年間に希望して校史資料部の仕事をさせてもらいました。古い校舎から引越した時、資料を段ボールに入れたまま運んだらしく、そのまま積まれていました。当時はまだ同窓会館もなく学校の中に同窓会の資料もあって校史資料部が整理と管理を担当していました。資料を読んだので本当に楽しか

校史資料の整理楽しむ

こともありました。資料を一つ一つ読むのは時間がかかり

ました。読むのは時間がかかり

古い時代の卒業生が高齢とな

って同期の会をこれで閉じる

といった切々たる手紙があっ

てなんともいえない寂しい気持ちになったこともありまし



つたですね。写真はアルバムを買ってもらって整理しました。「羽城」の欠

番を古本屋に行つて見つけた

徒は育ち盛りでおなかが空いていたでしょうに、つまみ食いなどみつもまないことをしては駄目よというときちゃんと守って、一生懸命に頑張つて楽しかったですね。行事を精選した方がいいという意見も勿論ありましたが、いろんな経験をすべきだという意見の先生方が多かったようです。

退職された今どのように過ごされていますか

週一回スポーツクラブ、月二回習字に行っています。習字はその時書けばいいというものではなく、午後家にいる時はほとんど書いています。なかなか上達せず、苦しい時の方が多のですが、やめようとも思わず続けていますね。また、旅行が好きで一年に一回は外国に行っています。ヨーロッパの街並みが好きです。イタリア、ドイツ、フランスなどに行きました。ロシアもおもしろかったです。勿論国内にも行きますが。

最後に秋高生に一言

いろいろな生徒がいて概してきちんとしていましたね。だからしなくしないで欲しい。品性を保って広い世界で活躍してください。

◎学校教育は多くの人によって支えられていることを改めて感じさせられた訪問でした。

初恋の人も古いけむ紅椿

残っています、書き留めてい

ました。

「五鳳」と記された俳句が心

に残っています、書き留めてい

ました。